



2017・2・1

第 262 号

101-0065 東京都千代田区
西神田 2-5-7 神田中央ビル 303

TEL 03-3221-5075

FAX 03-3221-5076

自衛隊は南スーダンからただちに撤退を

ねばり強く広がる「19 行動」

戦争法強行から 1 年 4 ヶ月目の 1 月 19 日、各地の「19 行動」はおとろえるどころか、ますます全国的な取り組みへと広がっています。「駆け付け警護」などの新任務を付与した自衛隊の南スーダンへの派兵など、これらの行動には、戦争法発動に本格的にのりだした安倍内閣に負けるわけにはいかない、との気迫がみなぎっています。

県内 8 市町でいっせいに行動

【栃木県内九条の会】 栃木県内の「戦争法廃止を求める 19 日行動」は、宇都宮市、足利市、栃木市など 8 市町で取り組まれ、各地の「市民ネットワーク」や「九条の会」などから参加しました。

栃木市では、「太平山麓九条の会」のメンバーら 11 人が行動。とちぎコープ店前で「戦争法廃止 憲法 9 条守ろう！」との横断幕などを持ち、リレートーク。大森八重子さんは「南スーダンにいる自衛隊に殺し殺される危険性が高まっています。憲法 9 条は、日本の平和を守り続ける 21 世紀の羅針盤です。これと真逆な戦争法は直ちに廃止しましょう」と訴えました。

九条の会第 6 回全国交流集会の 成果をこれからの運動に =< 報告集 >=

◇主な内容 呼びかけ人あいさつ(澤地久枝)/問題提起(小森陽一)/世話人あいさつ・メッセージ/分散会の報告(第 1~第 7 分散会)/資料 アンケートから見た九条の会の課題、他

◇B5 判 76 頁 1 冊 800 円(〒82)

5 部以上〒無料 10 部以上 1 割引

=< DVD >=

◇主な内容 呼びかけ人あいさつ/事務局長報告/世話人あいさつ・紹介

◇取り扱い 1 本 1500 円(〒160)

インターネットで栃木市の「19 日行動」を知り、参加した下野市の男性(46)は「(戦争法は)とんでもない法律だ。粘り強く知らせる必要があり、下野市でも行いたい」と話しました。

宇都宮市では、「県民ネットワーク」が二荒山神社前で、「宇都宮市民の会」が東武宇都宮駅前ですれぞれ行動。同駅前では、共産党、社民党の宣伝カーが並びました。

お互いが力をもらいあって

【長野県軽井沢町・9条の会】 長野県軽井沢町では、9条の会メンバーらによる戦争法廃止スタンディングが行われました。

「オスプレイいらない」「戦争法廃止」と書いたプラカードを沿道に掲げていると、ドライバーも手を振ってこたえます。

毎回欠かさず参加している73歳の女性は、「通りかかった他県の人と一緒に行動に参加したり、他県ナンバーの車から激励を受けたりすることもあり、お互いが力をもらい合っている」と、保健休養地ならではの出会いがあるといいます。「9条がある国で戦争をさせてはいけない。国民が反対しているのに数の力で決めてしまうのは許せない」と語ります。

「自衛隊員は国を守るため」に入隊

【札幌市・琴似・山の手9条の会】 札幌市西区の琴似9条の会と山の手9条の会は19日、地下鉄琴似駅前、「憲法の改悪に反対し、9条を守ることを求める」宣伝署名行動にとりくみました。会員の手作りの横断幕やプラカードなどをかかげ、買い物客らに署名を呼びかけました。

会員が交代でマイクを握り、「悲惨な太平洋戦争の反省から戦争放棄を決めた9条。自民党は9条2項を削除して国防軍をつくり、アメリカがする戦争に加担しようとしています」と告発しました。

87歳の女性は「戦時中、田舎に住んでいたけど米爆撃機B29が飛んでいました。戦争は絶対だめです」と署名。「憲法9条の戦争放棄はすばらしい。他の国も見習ってほ

しい」と話す女性や「自衛隊員は国を守るために入ったと思う。戦争するためではないはず」（60代男性）との声もありました。

南スーダン派兵の友人が心配

【青森県・青森県九条の会】 青森県九条の会は17日、青森市で「自衛隊を送るな。南スーダンから撤退」を訴える宣伝・署名を行いました。宣伝には、県九条の会、憲法ネットあおもりなどから15人が参加、チラシと「9条守ろうティッシュ」を配布しながら署名への協力を呼びかけました。

参加者は、内戦状態の南スーダンでは「大規模な残虐行為が起きる現実的な危険がある」とした国連の警告を紹介し「武力紛争はない」とだまして南スーダンに自衛隊の派兵を強行した安倍政権を批判。

南スーダンへ派兵された自衛隊員の一人が友人だと話す女子大学生(22)が署名。「日本は南スーダンの情勢も自衛隊員の安否も報道してくれないから不安。早く帰ってきてほしい」と話しました。

署名した女性(41)は「自衛官のいともいつ派遣されるかわからない。安倍政権の言葉は信用できないし、安保法制は廃止してほしい」と訴えました。

「9条と25条を車の両輪」に

【福島県・ふくしま県女性「9条+25条」の会】 ふくしま県女性「9条+24条」の会は21日、昨年11月に結成10周年を迎えたのを記念し、東京大学大学院教授の高橋哲哉氏を講師に講演会を開きました。

遠藤宮子代表が「昨年の参院選で野党と市民が共同し、自民現職大臣を破った。小

さい力も集まれば大きくなることを教えられた。平和と平等を掲げ、手を取りあつて行動を」と主催者あいさつ。

国内外のギターコンクールで上位入賞を果たしている井上仁一郎氏（福島市出身）が演奏し、魅了しました。

高橋氏は、安倍政権の改憲攻勢に対し、自民党改憲案の中身をきちんと理解し、その狙いを知ることの重要性を指摘。同時に「9条を守るというだけでなく、安保体制の議論が大事になっている」と述べました。

最後に、「9条と24条を大切な車の両輪として一人ひとりが声を出し、行動していきましょう」とのアピールを採択しました。

「市議会議員の会」が講演会

【鳥取県・鳥取市議会議員の会】 「憲法違反の安保法制廃止をめざす鳥取市議会議員の会」は21日、鳥取市で憲法講演会を開きました。

鳥取県弁護士会憲法委員会委員長の中崎雄一弁護士が講演し、安保法制＝戦争法は紛争解決のための武力行使を伴う憲法違反の法律だとして、廃止と立憲主義の回復を訴えました。また、南スーダンの自衛隊が「駆け付け警護」「宿営地共同防護」を実行すれば、政府軍との衝突が避けられないとして、撤退を強調しました。

参加者から中国や北朝鮮の“脅威”に対して“米国の核の傘”など軍事的抑止力の効果を問う質問があり、中崎氏は「戦争は各国の存立基盤を崩す。国の役割は国際紛争を戦争にしないこと。外交努力で解決することが世界の流れだ。米国もテロの標的にされており、抑止力でテロは防げない」

と答えました。

鳥取市「9条の会」の田治米佳世医師、「安保法制いけん！廃止を求める気高の会」事務長の田中文子氏や「安保法制を廃止し立憲主義を取り戻す末恒の会」の呼びかけ人らが活動報告しました。

「憲法カフェ」で牧師が講演

【愛媛県松山市・守ろう憲法9条！桑原の会】 松山市の「桑原の会」は24日、市内で第2回憲法カフェを開き、日本バプテスト道後キリスト教会の宮本恵牧師が「憲法と信仰」と題して講演しました。

宮本氏は、安倍内閣が今国会で成立を狙う共謀罪について「国民の内心を処罰しようとするもので許されない。憲法に反する危険な動きがすぐそこまできている」と警鐘を鳴らしました。

フリートークでは、「靖国神社は1970年代にA級戦犯も戦役者と一緒に合祀（ごうし）した。許されないことだ」「日本会議の改憲策動は活発だ。年始にも宣伝をしている」などの意見が出されました。

桑原の会は今後、隔月で憲法カフェを開催する予定です。

450人でフェス、各党も連帯

【東京都日野市・日野市民の会】 東京都日野市で15日、「ピースフェスティバル」が行われ、寒い中450人が参加しました。参加者は終了後、会場からJR中央線豊田駅近くまでの約2kmをパレード、「平和を守ろう」とアピールしました。

同フェスは「戦争はいやだ！平和憲法を守ろう！日野市民の会」が主催したものの。

「月桃の花」歌舞団の沖縄民舞で開幕し、手づくりの憲法劇「あたらしい憲法草案のはなし」が上演され、参加者から「自民党憲法草案」の怖さが分かったとの声が寄せられました。

市民スピーチではプラカードや横断幕を持って、「高幡台団地9条の会」「健康友の会」「日野市民連合」の人たちが登壇し、それぞれの立場から平和の願い、憲法を生かす思いを語りました。

共産党、社民党、日野生活者ネットワークの代表もあいさつし、小沢一郎自由党代表のメッセージも披露されました。

地域の文化祭に出展、広がる反響

【群馬県前橋市・かがや9条の会】 かがや9条の会は昨年10月、桂萱地区文化祭に特別部門で参加しました。桂萱公民館構内の独自のテントには、これまでの作品と「かがや9条の会10年」など、今年作成した作品を展示しました。役員は朝早くからテントの設置や作品展示、交替でテントに待機し、立ち寄られた方々との対話を重ねました。戦争の悲惨さを改めて感じ合う機会となりました。

会は2012年に「アジア太平洋戦争の戦没者調査」を行い、6周年のつどいで岩根承成講師（群馬県歴史教育者協議会会長・かがや9条の会代表世話人）から「他の地域でも実施しては」と呼びかけました。これをうけ南橋9条の会がまず実施し、今年、5つの9条の会が調査を行いました。7地域の調査結果を岩根氏が分析し、「前橋に『平和資料館設立をめざす会』主催「企画展（8/18-20）」の記念講演で発表しました。

71年ぶりに、姉の遺跡に

（11月12日の）前橋空襲の戦跡めぐりの最後に、明和短大の構内にある明和観音に寄ってもらいました。というのは、8月5日の前橋大空襲で、姉が焼夷弾の直撃により爆死したのです。姉は、当時平方裁縫女学校（今は明和高校）に在学していたのです。

私は、空襲の夜、かすかな飛行機の爆音を聞き、姉の爆死などつゆ知らず外に出て見たのです。すると東の空が焼け、中之条町からでも空が赤く見えたのです。姉は夏休み中でも軍の命令で軍服を作る作業のため家に帰る事もできずに寮に寝泊まりしていたのです。その時の犠牲者は4人でした。

次の日（だと思のですが）近所の人がりヤカーを引いて遺体を引き取りに行ってくれました。しかし、真夏だったため、すでに腐敗がすすみ引き取ることができず、近所のは空のりヤカーを引いて戻ってくれたのです。

私は、お陰さまで71年目にして初めて、姉たちの骨が埋められ化遺跡に詣でることができました。思わず涙してしまいました。

群馬県草津町 市川 旦

（「西吾妻・九条の会ニュース」NO24）

資料には、各地9条の会の調査結果や岩根氏の分析結果、本件を取り上げた8/15朝日新聞記事も添付し、「前橋市域の『太平洋戦争』戦死者調査」を完成させました。（「かがや9条の会だより」NO112）